

令和8年蔵王町議会定例会3月会議

町長施政方針

蔵 王 町

(令和8年3月2日)

本日、ここに令和8年蔵王町議会定例会3月会議が開催され、令和8年度一般会計予算をはじめとする関係諸議案をご審議いただくにあたり、私の町政運営に対する基本方針と概要を申し述べ、町民の皆さま並びに議員の皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

1 〈はじめに〉

本町は、昨年、町制施行70周年を迎え、4月に挙行した記念式典では、先人が幾多の困難を乗り越えて築いてきたこれまでの歴史を振り返るとともに、本町の魅力をさらに磨き上げ、未来へ引き継ぐ決意を新たにす機会となりました。

私は、町長就任以来6期22年目に入り、町政を預かる立場として、町民の皆さまの負託に応えるため、これまで培ってきたものを最大限に生かしながら、様々な課題と向き合い、働いて働いて働いてまいりる覚悟で、新年度に臨む考えであります。

新年度は、蔵王中学校の開校に向けた大事な1年になります。中学校開校準備に必要な予算を集中させるため、新規事業の抑制、継続事業の精査をして、予算を編成いたしました。同時に、住民サービスの低下を招かぬよう、第五次長期総合計画の重点戦略に優先的に取り組みながら、行政各般にわたり計画的な行政運営を展開していく所存であります。

2 〈社会経済情勢等の変化〉

今なお、世界情勢は先行きが見通せない状況にあり、国内においては、賃金上昇の一方で、それが追い付かない程の物価高が続く、町民生活や事業活動に影響を及ぼしております。本町では、国の交付金等を活用した物価高騰対策など、町民の皆さまや事業者を支援する各種施策を進めてまいりました。

そのような中、2月8日に執行された衆議院の解散総選挙では、与党である自由民主党が、単独で定数の3分の2を超える議席を獲得し、今後、「積極財政」政策が加速するものと思われます。

本町でも、国の政策に沿って、町民の皆さまの健康と安全を第一としつつ、地域経済や雇用、生活の安定に向け、全力を尽くすとともに、柔軟かつ地に足の着いた各種施策を着実に進めてまいります。

3 〈まちづくりの重点戦略〉

本町のまちづくりの指針である第五次長期総合計画は、後期基本計画5年間のうちの3年間が経過しようとしております。

本計画の推進にあたっては、「町民が主役・地域が主体のまちづくり」を進めるとともに、社会情勢や将来の目指すべき本町の姿を踏まえながら、町民と行政が一体となって、より良いまちづくりのために取り組んでいかなければなりません。

このため、毎年、庁内各部署の取組実績を企画審議会に報告し、外部評価や意見をいただきながら、各種施策の推進や、数値目標の達成に向けて取り組んでおります。

本町のまちづくりでは、長期総合計画に3つの重点戦略を掲げておりますので、新年度はそれぞれの戦略項目ごとに、次のような事業を進めてまいります。

【重点戦略1 ずっと住み続けたい快適な環境づくり】

重点戦略の1つ目、「ずっと住み続けたい快適な環境づくり」では、教育環境の充実と国際化に対応した「人」づくりや、快適なまちづくりを目指してまいります。

まず、教育環境の充実であります。令和9年4月開校を目指

す蔵王中学校の建設事業については、現在、校舎の新築工事が順調に進んでおります。また、円滑な開校に向け、路線バスとスクールバスを組み合わせた通学バスの運行などの準備を進めており、新年度においては、できるだけ早期にこれらの準備が整うよう努めたいと考えております。

本町の学校教育の重点施策としては、「ざおうみらいアタック5！」を掲げ、特に、大地の豊かな恵みに育まれる蔵王町が幼児・児童・生徒の「学びの充実」を目指すため、「蔵王みらい学園都市構想」を推進し、遊び・生活科・総合学習を通じた、一貫した「探究の学び」と「英語教育特区」と「ICT教育」の3本柱により主体的に課題を解決する、蔵王町独自の教育を進めてまいります。

そして、ふるさと蔵王町を誇りに思い、たくましく生き抜く力を身に着け、将来の蔵王町を支える人材、さらに、広く国際社会で活躍できる、豊かな資質・能力を備えた人材を育成してまいります。

移住定住の促進では、「定住促進事業補助金制度」の活用がこの8年間で215件にのぼり、そのうち町外からの移住は99件という実績であります。また、令和6年度に創設した「奨学金返還支援補助金制度」と合わせて、若者の地元回帰と定住促進に努めてまいります。

空き家対策では、「第2次蔵王町空き家等対策計画」に基づき、保安上危険となるおそれのある空き家の対策や、「空き家バンク」制度の拡充に努めるなど、移住希望者や町外からの新規就農希望者への情報提供を進め、空き家の有効活用を促進してまいります。

地域公共交通対策では、「地域公共交通計画」に基づき、路線バス等の経路やダイヤを見直すとともに、蔵王中学校に導入するスクールバスの一部を町民バスとして運行できるよう準備を進め、

利便性の向上を図ってまいります。また、本町の地域公共交通計画の終期が令和8年度でありますので、新たな計画の策定に向け、準備を進めてまいります。

65歳以上の方や障がい者を対象としたタクシー利用券については、昨年10月から、助成金額や利用可能な事業者を拡大して、高齢者等の日常生活での移動手段の確保に努めてきたところであり、新年度も継続してまいります。そのほか、「高校生通学費補助金制度」を継続し、保護者への経済的負担の軽減を図ってまいります。

安全で快適な道路整備の推進では、蔵王中学校の外周道路工事や町道西裏井戸井沖線の道路改良工事を行いながら、町道等の舗装補修工事などを行ってまいります。また、県道白石柴田線改良の事業化に向けた関係機関との協議を進め、早期にJR東白石駅の周辺環境が向上できるよう努めてまいります。

【重点戦略2 愛にあふれるふるさとづくり】

次に、重点戦略の2つ目、「愛にあふれるふるさとづくり」では、町民が愛情あふれる笑顔に満ちた家庭を築くことや、町に誇りと愛着が持てる「ふるさとづくり」を目指してまいります。

まず、子育てしやすい環境整備については、令和5年4月に開園した「おひさまこども園」（宮）、昨年4月に開園した「おおぞらこども園」（永野）で、「質の高い幼児教育、保育の総合的な提供」、「保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的向上」、「地域の子ども・子育て支援の充実」といった目標を掲げ運営してまいります。また、遠刈田幼稚園を含め、「架け橋期」の子どもたちを円滑に小学校生活に結び付けられるよう、しっかりと体制を構築してまいります。

次に、子育て家庭の支援では、子ども医療費助成やインフルエ

ンザ予防接種助成、あったか支援金など、町独自の施策を継続するとともに、認定こども園及び幼稚園に通う3歳児から5歳児までの給食費及び今年度から開始した中学生の給食費に加え、新年度からは小学生の給食費も無償化し、子育て世代の経済的負担の軽減や食育の推進など、子育て環境の向上を図ってまいります。

また、現在、総合運動公園内の遊具広場を拡充する工事を行っているところであり、4月中旬の落成式を予定しております。オープン後は、子どもの遊び場として安心してご利用いただけるよう、適切に管理してまいります。

「蔵王ジオパーク」については、昨年1月に「日本ジオパーク」に認定されたことでブランド力が向上し、蔵王の持つ資源の素晴らしさがテレビ番組でも取り上げられております。また、1月24日に開催した「認定1周年記念講演会」には130人の方が参加され、関心の高さが伺えたところであります。今後、活動拠点となるジオパークセンターの展示などの充実に取り組みながら活動を盛り上げ、「ありのままの蔵王を、未来まで。」をテーマに、地域の皆さまとともに、郷土に対する誇りと愛着を育ててまいります。

【重点戦略3 オンリーワンな魅力づくり】

次に、重点戦略の3つ目、「オンリーワンな魅力づくり」では、蔵王の雄大な自然や多種多様な産業を誇りとし、町独自の魅力を磨き上げ、オンリーワンな魅力あるまちを目指してまいります。

まず、多面的な農業の振興では、農畜産物の付加価値を高めるため、蔵王ブランドの向上に努め、農業と観光のさらなる連携強化を図り、農産物の地域内消費拡大と収入の確保対策に取り組んでまいります。

地域農業の担い手となる農業後継者不足の課題に対しては、国

の補助制度に加え、町独自の補助制度を継続しながら新規就農者の確保に努め、新たな担い手として育成することで、本町の農業振興を図ってまいります。また、今年度、特産品である果樹の産地継承を目的とした「地域おこし協力隊」を募集し、2人の採用を決定したところであります。農業後継者としての自立を目標に、4月から活動していただきます。

次に、観光分野では、体験型観光にも力を入れ、国内観光誘客はもとより、インバウンドを推進してまいります。本町には、国内外を問わず、台湾をはじめ韓国や欧米から、多くの訪日観光客が訪れていることから、今後も継続して観光情報を発信してまいります。また、蔵王の資源を活用した新たな観光コンテンツとして、本町が造成に取り組んできた「宮城オルレ蔵王・遠刈田温泉コース」が、昨年8月に新規コースとして認定されたところであります。昨年の全国的なクマ騒動により、11月に予定していたコースのオープンを5月に延期したところでありますが、今後、国内外からの誘客が期待されるものであります。

さらに、訪日観光客からの人気が高いキツネ村の観光客を本町へ呼び込むため、本年1月から3月まで「みやぎ蔵王山麓アクセス線」運行の実証実験を行っているところであります。新年度においても、この実証実験を継続し、「仙台駅から本町へ立ち寄り、キツネ村へ」という観光客の流れを確立したいと考えているところであります。

以上、申し上げました3つの重点戦略は、町の未来像の実現に向けて他の事業を牽引する先導的な施策として、重点的に進めてまいります。

4 〈防災・減災対策〉

次に、防災・減災対策について申し上げます。

昨年2月には岩手県大船渡市の林野火災、11月には大分県佐賀関における住宅密集地での火災があり、本年も1月に山梨県上野原市で林野火災が発生し、被害が広範囲に及ぶ事態となりました。また、昨年12月には青森県東方沖を震源とする地震、本年1月には島根県東部を震源とする地震など、自然災害も頻発しております。政府の地震調査委員会では、今後30年以内に宮城県沖地震が発生する確率を「80パーセントから90パーセント程度以上」に引き上げたところであります。

本町においても、地震、火山、風水害など様々な災害リスクを抱えております。町民の安全・安心を確保するため、松川の火山砂防事業など国・県等への働きかけをしてまいりましたが、有事の際には、防災行政無線やエリアメールなどの情報伝達手段に加え、新たに導入した「防災ポータルアプリ」を活用し、警報や避難情報のいち早いお知らせや、避難所での円滑な避難者の受け入れを図るとともに、平時には、町総合防災訓練や防災指導員養成講習を計画的に実施し、町民の災害に対処する力の向上と地域防災リーダーの育成に力を入れてまいります。

5 〈財政運営の見通し〉

次に、令和8年度以降の本町の財政運営について申し上げます。

昨年の定例会9月会議における令和6年度決算審査でも申し上げましたとおり、本町の財政状況は、財政健全化法に定める「実質公債費比率、将来負担比率」などの指標や、地方債現在高の状況などをみますと、概ね健全財政を維持できていると認識しております。

基金ではありますが、特に財政調整基金は、令和6年度末の残高が約7億円であり、今年度予算の財源として活用した結果、本年の定例会1月会議時点において、約5億3千万円となりました。

これは、前年度の同時期より1億円の増となっております。新年度予算においては、今年度を超える額の取崩しを見込むものではありますが、財政調整基金は、大規模災害時の際の速やかな復旧予算の財源として活用できる重要な基金であることから、5億円の残高水準を維持できるよう、引き続き行財政改革に取り組みながら財政運営を進めてまいります。

そのような中で編成しました令和8年度当初予算は、歳出において、今後も高齢化等に伴う社会保障関係経費や、老朽化した公共施設・インフラの修繕などの費用の増加が見込まれることから、需用費や委託料などの精査に努めながら、蔵王中学校建設関連費用に予算を集中させたところではありますが、人件費や公債費など義務的経費の増大もあいまって、予算の規模が過去最大となったところでもあります。

歳入では、地方交付税の増額とともに、寄附金による増収などを見込んだほか、中学校建設関連費用を賄うための財源として、国庫支出金、基金からの繰入金及び町債の予算を大きく増額したところでもあります。

例年、一般会計からの繰出金により赤字を補填しながら運営してきた国保蔵王病院については、今後、みやぎ県南中核病院と連携しながら、令和9年4月を目標として診療所化を実現させ、地域医療の充実と財政負担の軽減を両立させたいと考えております。

本町の財政運営は、将来への必要な投資と財政規律のバランスを見極め、持続可能な財政運営の視点に立った執行に努めてまいります。また、緊急的な事案に対しては、機を逸することなく、柔軟な発想とスピード感を持って必要な対策を講じてまいります。

6 〈新年度の施策大綱ごとの主な事業〉

次に、新年度における主な事業のうち、重点戦略に掲げた以外

の事業について、第五次長期総合計画に掲げる「まちづくりの基本方針」ごとにご説明いたします。

健やかなまちづくり（保健・医療・福祉）

まず、「健やかなまちづくり」であります。

全ての町民が健康的で生きがいのある生活を送れるよう、保健・医療・福祉の充実を図ってまいります。

地域医療の充実に向けては、白石市医師会、仙南歯科医師会などの協力を得ながら、休日・夜間でも安心して診療や救急診療が受けられる体制を維持するとともに、仙南医療圏の安定した地域医療提供体制確立のため、みやぎ県南中核病院の救急医療負担金を計上いたしました。

健康づくりでは、各種健康診査やがん検診等を継続するとともに、受診等の結果に対する生活習慣病予防などの事後指導を充実強化し、自ら健康管理を行おうとする町民の意識定着を目指してまいります。

妊婦と胎児の健やかな成長・出産の支援では、妊娠期から出産・子育て期まで一貫した伴走型相談支援を充実させ、切れ目のない支援に取り組むほか、妊産婦健康診査事業や産後ケア事業等の充実を図り、妊産婦期における支援体制の構築に努めるとともに、特定不妊検査費及び治療費の助成をしてまいります。

子育て支援では、「第3期子ども・子育て支援事業計画」に基づく各種施策を実施してまいります。子ども家庭センターを拠点として、在宅の未就学児を持つ保護者を中心に育児相談・指導などの支援を行うとともに、子育て世帯訪問支援事業等の実施により、子育てしやすい環境を整えてまいります。

高齢者の福祉施策については、高齢者が住み慣れた地域で心豊

かに安心して暮らすことができるよう、介護予防事業や認知症施策、高齢者福祉サービスの充実を図るとともに、高齢者の心身の特性に応じた、保健事業と介護予防事業を一体的に実施することにより、健康寿命の延伸と介護予防に取り組んでまいります。また、「高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画」の期間が終了することから、次期計画の策定に向け、準備を進めてまいります。

障がい者の福祉施策については、終期を迎える「障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画」の次期計画の策定に向け準備を進めるとともに、障がいのある人が自分らしく生きられることを支援する社会づくりに取り組みながら、障がい福祉サービスの充実、就労支援の促進、療育に関する支援体制の充実など、各種施策を推進してまいります。

学び楽しむまちづくり（教育・文化・スポーツ）

次に、「学び楽しむまちづくり」であります。

子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち続け、時代の変化に対応できる「生きる力」を育てる教育の充実を図るため、家庭・地域・学校が連携して進めてまいります。

令和元年度から取り組んでいる「子どもの心のケアハウス支援事業」では、県からの支援が減少するなかであっても事業を継続し、不登校の児童・生徒及びその保護者に対する専門スタッフの教育相談や生活・学習指導を行い、心の問題の改善と自立を図ってまいります。

学力向上のための取り組みでは、学校教育指導員による学習支援、学校図書支援員による学校図書室機能の充実などを継続してまいります。

情報化社会に生きる子どもたちにとって、国が進める「G I G

Aスクール構想」のもと、本町では、情報教育指導員を継続して配置し、タブレット端末等を活用した効果的なICT教育を進め、子どもたちの学びを支援してまいります。新年度においては、更新時期を迎えるタブレット端末を順次更新してまいります。

また、通常学級に在籍する個別支援が必要な児童・生徒について、特別支援教育支援員の配置の継続により、一人一人のニーズを把握した適切な支援に努めてまいります。

生涯学習分野では、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育てる「地域学校協働活動推進事業」（ざおうっ子応援団による活動支援）並びに、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進める「コミュニティ・スクール」（学校運営協議会）を継続し、活動を支えるボランティアの拡充と活動機会の充実を図りながら、「地域とともにある学校づくり」を推進してまいります。

また、ふるさと文化会館自主公演事業では、仙台フィルハーモニー管弦楽団によるアンサンブル・コンサートや蔵王落語会、宝くじ文化公演「歌園迎賓館」の開催などを計画しております。

社会体育分野では、町民の各種スポーツ活動や大会の開催を支援するほか、スポーツに親しめる機会の充実と健康増進を図るため、各講座や体験教室の開催を計画してまいります。また、昨年10月に開催した「縁JOYスポーツフェスティバル」は、800人もの来場者で賑わったところであり、このイベント等の継続により、スポーツを通じた交流人口や関係人口の増加を図ってまいります。施設の面では、新年度に、B&G財団の補助金を活用し、海洋センターの全館LED化やプールフロアのリニューアルなどの大規模改修工事を行う計画であり、安全性や快適性の向上を見込むものであります。

地域間交流については、友好都市協定により、茨城県常陸大宮市、東松島市との交流を促進し、観光資源や物産、文化等の相互理解を深めるとともに、地域の活性化に努めてまいります。

美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）

次に、「美しい快適なまちづくり」であります。

定住環境の充実を図るとともに、景観にも配慮した美しい快適なまちづくりを目指してまいります。

環境分野では、「第二次蔵王町環境基本計画」に基づき、地球温暖化対策をはじめ、ごみの適正処理と減量化・資源化など、各種施策に取り組むほか、「蔵王町自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」に基づき、豊かな自然環境と町民の生活環境との共生を図ってまいります。

景観形成と景観保全では、本町の良好な景観、誇りや愛着のある景観を守り、次世代に引き継いでいくため、景観区域を町全体に広げた「蔵王町景観計画」により、蔵王町らしい景観づくりを進めてまいります。

公園については、現在施工中の総合運動公園内遊具広場のほか、既存の遊具等を定期的な維持管理や専門業者による点検の実施により、安心して利用いただけるよう努めてまいります。

河川堤防除草作業については、今年度、「遠隔式自走草刈機」を試行的に導入いたしました。各行政区の負担軽減が認められるものであることから、新年度において、さらに1台購入するための予算を計上いたしました。

次に、公営企業になりますが、上下水道事業は、学識経験者らを交えた経営審議会を開催し、健全経営に努めるほか、水道事業においては、スマートメーターによる検針や漏水対策の実証実験

に加え、ドローンによる水管橋の点検等、DX化を進め、業務の合理化・効率化を図ってまいります。さらに、配水池電気計装設備更新事業を継続実施し、施設のIoT化を進めるほか、将来にわたり持続可能な事業運営を行うため、「水道事業基本計画」策定を進めてまいります。また、下水道事業では、料金改定により安定経営を図るとともに、将来の管渠の更新等を見据え、国庫補助を活用して「管路ストックマネジメント実施方針計画」を作成することで、施設の更新時期の平準化や長寿命化、維持管理の効率化に努めてまいります。

活気あるまちづくり（産業）

次に、「活気あるまちづくり」であります。

本町の基幹産業である「農業」と「観光」の振興を図り、経済基盤の強化や地域経済の活性化につなげてまいります。

農村環境の整備については、国の多面的機能支払交付金制度を活用し、地域の共同活動による農地・水路・農道等の地域資源の保全管理を行う取り組みを継続して支援してまいります。また、向山地区のほ場整備事業については、県営の受託事業採択に向け、職員体制を強化し取り組んでまいります。

次に、有害鳥獣対策については、全国的に被害や目撃が相次いだクマへの対策も含め、農作物等の有害鳥獣対策の強化を図ってまいります。また、非農家も含めて電気柵等設置に対する助成を継続し、農作物の鳥獣被害に対する町民の自衛対策を支援してまいります。

防疫対策では、毎年、県内外においても高病原性鳥インフルエンザの発生などが確認されていることから、衛生管理支援を継続し、県など関係機関と連携した防疫体制の強化を図ってまいります。

観光面では、「蔵王」の知名度を十分生かし、観光客入込数・宿泊客数の増加に向けて、町観光物産協会などと連携した効果的なプロモーションや、近隣市町との広域連携による各種施策を展開し、交流人口や観光消費拡大による地域経済の活性化を図ってまいります。

商工面では、町商工会などと連携し、中小企業振興資金の活用による事業者の負担軽減や経営安定に努めるほか、町内の賑わいを創出するため、空き店舗等の活用を促進し、新たに出店する個人や事業者に対する支援を継続してまいります。また、商店街が自主的に行う公益的な事業に対し支援を行うなど、地域消費者に支持される賑わいのある商店街の創造と地域経済の活性化を図ってまいります。

そのほか、企業への支援として、昨年4月から企業奨励制度を大幅に拡充いたしました。さらに、事業所を新設・増設した際の新規雇用に対する「雇用奨励金」の適用範囲を広げることで、町民の雇用の促進を図る考えであります。

ふるさと納税制度については、今年度、現時点での本町への寄附額は、前年度実績の約6億4千万円を大きく超える約8億円の寄附を受け付けているところであります。新年度においても、さらなる増額を目指しながら、本町産品の魅力を全国に発信するとともに、地元産業の活性化につなげてまいります。

共に創るまちづくり（町民参加・安全・行政運営）

次に、「共に創るまちづくり」であります。

町民や自治組織、企業などと行政の協働によるまちづくりを発展させてまいります。

自主防災組織については、現在21行政区で組織され、防災訓

練や自主避難所の開設・運営を実施するなど、防災に対する町民意識の高まりを感じております。今後も防災資材整備や避難所施設への太陽光パネル設置事業を継続するとともに、地区を対象とした学習機会を提供することで、防災意識の普及・啓発に努め、自主防災活動を促進してまいります。

また、地域の防災力確保の要である消防団を強化するため、定期的な機械器具点検の実施、消防施設の整備に努め、消防団員定数300人体制の確立を目指してまいります。

交通事故や犯罪のない安全・安心なまちづくりでは、交通指導隊や防犯実働隊、並びに各地区交通安全協会、防犯協会と連携を図りながら、交通安全、防犯活動等に取り組んでまいります。高齢運転者に対しては、安全運転の啓発や運転技術の向上を図るとともに、タクシー利用券により移動費用の支援を継続してまいります。

積極的な行政情報の公開では、町ホームページにおいて行政情報を提供するとともに、1月から新たに導入しました「ざおう情報アプリ」を活用し、情報拡散力と即時性に優れるSNSでの積極的な情報発信に努めてまいります。

自主財源の確保については、庁内で組織する「町税等滞納整理強化推進連絡協議会」による情報連携・組織力を生かした町税等の徴収率向上に努めるほか、ふるさと納税制度について、寄附額を伸ばせるよう、より効果的な方法を研究し取り組んでまいります。また、既存の3中学校の跡地について、現在行っているサウンディング型市場調査を生かし、有効活用を検討してまいります。

最後に、行財政の健全化であります。これまでも、私を本部長に全課長で組織する「蔵王町行政改革推進本部会議」を経て、職員の意識の共有を図りながら全庁的に改革を進めてまいりました。

たが、大型事業の実施に伴い借り入れた地方債の償還により、今後、財政負担の増加が見込まれます。これからは、中長期の展望だけでなく、より現実的に、3年程度の財政需要を把握しながら、着実に行財政改革に取り組んでまいります。

7 〈結びに〉

以上、令和8年度を迎えるにあたり、私の町政運営に関する基本的な考え方などを述べさせていただきました。

なお、本町の第五次長期総合計画は、期間を令和9年度までとしていることから、新年度から2年間で、計画の総括及び第六次計画策定の準備を進めてまいります。

町民の皆さま並びに議員の皆さまの一層のご理解・ご協力、そしてお支援を心からお願い申し上げます。